

令和3年度第1回春日井市総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和4年2月8日（火）午後1時30分～2時30分

2 開催場所 春日井市役所 3階 第3委員会室

3 出席者

【市長】 伊藤 太
【教育長】 水田 博和
【教育委員会委員】 浅井 敦臣
【教育委員会委員】 大野 みどり
【教育委員会委員】 小塩 泰代
【教育委員会委員】 竹田 卓弘

【事務局】 教育部長	西野 正康
教育総務課長	兒島 康万
同 課長補佐	渡邊 直美
同 担当主査	加藤 恵子
学校教育課長	大城 達也
同 主幹	南 英雄
同 課長補佐	山口 千夏
同 担当主査	仲野 高弘

4 協議事項

○中学校の新しい制服について

- 1 制服のデザインについて
- 2 導入する制服の最終選考方法（案）について
- 3 「新しい制服の導入から学校現場、児童生徒に考えて欲しいこと」に関する各教育委員からの意見

5 会議資料

- 資料1 春日井市総合教育会議名簿
資料2 試作品製作中のデザイン画A～E

6 協議概要

○中学校の新しい制服について

市長 春日井市総合教育会議 会議要綱第4条第2項の規定により、議事録署名人については、水田教育長を指定。

1 制服のデザインについて

学校教育 中学校の新しい制服の導入に至った概要についてご説明いたします。
課長 現在、本市の中学校制服は詰襟、セーラー服としております。しかし、気候の変化や多様性への対応など、既存の制服だけでは対応が困難な事態が生じつつあります。また、令和3年7月に実施した児童生徒、保護者、教職員へのアンケートにおいて「中学校には何らかの制服があった方がよい」、「制服を見直すことに賛成」、「既存の制服に加えて、ブレザースタイルの新しい制服を導入することに賛成」などの肯定的な意見が多数を占めました。こうしたことから、新しい制服を導入することで選択肢を増やし、誰もが快適な学校生活を送れるようにするため、導入に向けた準備を進めて参りました。

準備として、サポートメーカーの選定、デザイン画の提供、デザイン画の絞り込みを行い、そして今回、新しい制服の実物の見本をご覧ください。こととなりました。

学校教育 「資料2 試作品製作中のデザイン画A～E」に基づき、新しい制服の特徴についてご説明します。
課長

Aのデザインからご説明します。ジャケットの色はネイビー、ボトムの色はグレーで、グレーを基調とした王道のブレザーです。ボトムの柄は、将来に向かって成長する春日井市と中学生を重ね、市の木「けやき」新緑を連想させる青と緑の配色を取り入れたチェック柄です。中学生らしいフレッシュな印象を想定しています。

続きまして、Bのデザインについてご説明します。こちらもジャケットの色はネイビー、ボトムの色はグレーを基調としており、ジャケットの襟に白色のパイピングをアクセントとして取り入れ、おしゃれなブレザースタイルを目指しております。柄につきましては、市の木「けやき」の紅葉をイメージしたオレンジ色を配色し、中学生らしい元気で開発な印象に仕上げしております。

続きまして、Cのデザインについてご説明します。ブレザーとボトム両方ともネイビー一色でまとめ、さわやかで品のよいブレザースタイルとなっております。ボトムは、青とオレンジを使ったチェック柄

とし、市の木「けやき」が徐々に成長していくその過程を表現しております。

次に、D案についてご説明します。ジャケットの色はネイビー、ボトムの色はグレーを基調としつつ、ジャケットのフラワーホールに、ブルーでアクセントをつけております。すくすく育つ杉の木の成長と、子どもたちの成長を重ねてイメージした、ヘリンボン柄というチェック柄で仕上げしております。この柄には、子供たちの活発さを表現したえんじ色のラインと、若々しさとさわやかさをブルーのラインで表現し、みんなが着てみたい制服に仕上げしております。

最後に、Eのデザインについてご説明します。ジャケットの色はネイビー、ボトムはブラックウォッチタータンの生地です。ジャケットには春日井のサボテンをイメージしたグリーンのステッチと、フラワーホールで元気さ、爽やかさを印象づけ、ボトムの柄にはサボテンのグリーン、味美二子山古墳の埴輪のブラウン、市の花である桜のピンク、この3色を取り入れた春日井らしさマックスのかわいい印象に仕上げられています。

市長、教育
長、委員 (新しい制服の見本を縦覧)

市 長 ご覧になった制服について、委員の皆さんのご感想などを伺いたいと思います。

竹田委員 いずれも甲乙つけがたいですが、これはやめておいた方が良いというデザインはありません。

浅井委員 デザインにコンセプトは、子どもにとってはあまり関係がないと思います。

型については、女性なら機能的でウエストがシェイプされた型が良いのではないのでしょうか。他の点では、D案やE案の襟のワンポイントのように、アクセントがあると良い。

市 長 襟のワンポイントは何のために付いているのですか。

学校教育
課長 校章を付けるためのホールです。今は、名札に校章を付けています。

市 長 校章をホールに付ければ、制服生地は傷まないですね。
D案のホール部分は青色ですが、ワンポイントの青色が制服全体に

合うかどうかによっても、選択が変わるでしょう。

小塩委員 新しい制服は、流行りのチェック柄なのでお洒落な感じがします。男子の制服は一般的に無地が好まれるかもしれませんが、どの柄も感じが良いので、満足できるのではないかと思います。

きっと子どもたちはどのデザインになっても親しみを持つことができ、満足するのではないかと思います。

大野委員 どのデザインも甲乙つけ難く、素晴らしい。子どもたちは選択に迷うでしょうが、喜んで着ると思います。

市長 委員の皆さんの感想をまとめますと、この5つのデザインの制服について、見た感じとして、これは良くないというものはなく、ブレザーであることと、ちょっとしたアクセントが付いていることから、子どもたちも賛成してくれそうだといいことですね。しかし、子どもたちは選ぶのに困ってしまうかもしれません。

例えば、デザインAの上着とデザインBのズボンの組み合わせは可能ですか。

学校教育課長 デザインA、Bを始め、どの制服も一見同じネイビーの色に見えますが、濃淡が若干異なり、それぞれが異なる色です。そのため、上下異なるシリーズの制服にすると、作成メーカーの意図と違ってきますので、異なるメーカーの上下の組み合わせは想定していません。

市長 例えば、ホール部分の青いステッチだけは要らない等、細かい仕様の変更は可能ですか。

学校教育課長 そのような仕様の変更は可能です。

市長

最終的にこの5つの制服から選ぶことになりませんが、同じデザインの中なら多少の仕様の変更は可能であること、他のデザインとの組み合わせはできないということは明確にしておく必要があります。

ただ、子どもたちの意見の中で、この制服は好きだけど、このワンポイントがいらぬなどの少数意見をどうくみ取ってあげるかということも課題のような気がします。

いずれにしても、今後、各学校を巡回し制服の見本を見てもらい、5つのデザイン案から選んでもらう予定であると事務局から聞いています。

2 導入する制服の最終選考方法（案）について

学校教育 最終選考方法(案)について、ご説明します。

課長 事前に委員の皆さんからご意見がありましたように、制服を着る児童生徒の意見はぜひ聞きたいと思います。そのために、この制服見本を、各小中学校に持ち込み、実際に見てもらおう場を作りたいと考えております。その上で、子どもたち、保護者、先生のうち、どの意見を最終選択に反映させていくのかが、今後の検討課題です。
各委員の皆さんのご意見を、ぜひ頂きたいと思います。

市長 最終選考までの過程において、子どもたち、保護者、先生の選択をどう反映させるのか、それぞれの意見をどのようにすり合わせ考えていくのかについて、ご意見をお聞かせください。

浅井委員 学校を巡回する期間はいつですか。

学校教育 可能な限り早く、明日からでも巡回を始め、小中学校の卒業式の前までに巡回を終える予定です。この5つのデザインの制服見本が3セットありますので、同時に複数校を巡回します。

浅井委員 新しい制服は令和5年度に導入しますので、新しい制服を着る機会がない生徒もいます。そのような生徒も選考アンケートに参加するのですか。

学校教育 選考アンケートの対象者等については、今までに新しい制服に関する一連のアンケートで、児童生徒、保護者や教職員からご意見を聞いた経緯もあり、小学4年生から中学3年生を対象児童生徒としております。他市の事例も参考にしたうえで、小学1年生から小学3年生は1人では判断が難しいため、小学4年生からを対象としました。
一方で、委員の発言のとおり、現中学3年生は卒業するので、新しい制服を着る機会がありませんが、先輩として後に続く後輩に残してあげたい制服を選んでもらいたいという思いがあります。

浅井委員 「どうせ新しい制服は着ないのに」という気持ちで選択してしまうと結果に偏りが出てしまうので、アンケートを取る際に、「後輩のために」という思いを持って選ぶよう話をしてもらえば良いと思います。

小塩委員 卒業するので新しい制服を着る機会がない生徒も、今までの過程で関わってきたので、自分の意見がどう反映され形作られていくのか、

気になる生徒もいると思います。参加してきた結果を報告するという意味も込め、最後まで参加させてあげてほしいと思います。

竹田委員 基本的に、小学4年生から中学3年生を対象とした選考アンケートは、その世代の目線でどの制服が良いかを決めるということに意味があり、実際に着ることとは別だと私は思っています。

小学1年生から小学3年生は選考アンケート対象ではないので、中学生になったら新しい制服を着るにもかかわらず、制服の選考にはその子たちの意見は反映されていません。

選考アンケートの結果は基本的に普遍的なものと考え、実際に新しい制服を着る機会がないから卒業する中学3年生は選考から外すというのは理由にならないと思います。

大野委員 制服を変える理由の一つに、快適な学校生活を目指すことがあり、それを一番わかっているのは中学3年生だと思います。最高学年の中学3年生の目線で、後輩たちのために望ましい制服を考えてもらうこと、また、後輩のために選ぶという経験をする機会になる点において良いと思います。

市長 委員の皆さんの意見をまとめますと、基本的に、現中学3年生は制服を着る機会がないから選択する必要はないというのではなく、現小学4年生から中学3年生の皆さんで選びましょうということですね。

次に、選考アンケートの対象は児童生徒、保護者、学校の先生のいずれにするのか。子どもたちだけで決めてしまっても良いのか。実は、その点を心配しています。ほぼ差異のないデザインを決めるだけだとはいえ、やはり保護者の意見はあっても良い。ましてや、学校の先生が意見を言う機会はあると思います。

一方で、やはり子どもたちの意見を尊重する時代ですので、子どもたちの意見だけで決めて良いという意見もあるでしょう。

例えば、子どもたちの意見から上位3つを選び、その中から、いろいろな角度から選考し決める方法もあり、また、上位3つの中から、価格等を入れて保護者が投票等で決める方法もあります。ただ、後者の場合、子どもたちが選んだ3番目のデザインが、最終選考で1番になってしまうということもあり得ます。子どもたちは傷ついてしまうかもしれません。

いろいろなことを考える必要があり、難しいですね。

このことについて、何かご意見はありませんか。

教育長 大人は、価格や素材にも大きな関心がありますので、大人が選考する際は、価格、素材、機能性等の詳細な情報が必要になります。まずは、最初の段階として、制服のデザインについては子どもの意見でやってみてはどうかと思っています。

小塩委員 親としては、デザインはいずれも差異はないので、子どもたちが良いと決めた制服で良いと思います。ただ、快適な生活を考えたとき、それぞれの制服の快適さがどの程度保証されているのかが気になります。快適さに差異がなければ、その情報を親に提供すれば良い。そうすれば、親は選択するポイントはデザインだけだと理解し、安心して子供たちにデザインの選択を任せることができます。

大野委員 新しい制服について説明された「かわら版」が、文書で各学校から保護者に配付されています。今日、初めて実物の制服を見ましたが、紙で見るのと違うという印象を持ちました。印刷された「かわら版」を見ても、実物との違いがわからないのではないかと心配になりました。子どもの意見を優先させたい気持ちはありますが、保護者の考えも入れない訳にはいかないと思います。親の意見を適切なものにするために、学校で制服を展示する際は、親が実物の制服を見る機会を作る必要があると思います。

浅井委員 既に実施してきた調査の段階で親も参加していますので、最終的な選考においてもなんらかの形で親も参加した方が良い。

親は学校からの文書等の制服情報をもとに選考アンケートに参加し、児童生徒は実物を見て参加すれば良い。

竹田委員 自分たち自らが選んだ制服だという動機付けができますので、子どもたちに選考させることは良い。ただし、親は、予め信任投票的に「これなら良いだろう」という上位3つ程度を選んでおき、そこから子どもたちが選ぶという方法が良いと思います。

市長 5人の委員の皆さんから、それぞれ異なるご意見をいただきました。まとめますと、とりあえずデザインだけなら子どもたちだけで選べば良い。ただし、価格等が関係しますし、本来、親が子どものことに関係するのは当然の話ですので、やはり、制服の選考には親も参画するべきなのではないか。参画する方法としては、親にも実物の制服をみてもらうべきではないか。参画のタイミングとしては、まず、親が上位3つほど選び、その中から子どもたちに選んでもらうという意見

がありました。

委員の皆さんのご意見は様々ですが、各々が真剣に考えていただいている結果だと思っています。非常に難しいですね。

せっかく良いご意見をいただきましたので、今一度、事務局でよく検討したうえで、しっかりした方向性をお示ししたいと思います。

他にご意見はありますか。

小塩委員 制服の展示プレートにQRコードが記載されていますが、バーチャルで制服画像を見ることができると思います。親も制服をリアルに見たいという気持ちがありますので、画像の質が良ければ、バーチャルで確認するのも一つの方法かと思います。

学校教育課長 (バーチャル制服の表示を実演) スマートフォンでQRコードを読み込ませ、カメラに自分の顔を合わせると、自分が制服を着たように表示されます。

各委員 すべての制服で可能ですね。よくできている。

学校教育課 個人用のスマートフォンだけでなく、セキュリティ上の問題を解決したうえで、学校の1人1台端末からも使用できるよう準備を進めています。

市長 選考アンケートに親にも入ってもらうのか、入ってもらうならどのタイミングか、選考アンケートの進め方について、しっかり考える必要があります。

タイミングについては、委員の皆さんのご意見は各々違います。教育長は、とりあえずデザインは子どもに選ばせ、その後に親も参加し、詳細な情報を把握してもらえればいいのではないかというご意見です。一方で、デザインを決める段階で、親の意見を聞いた方が良いというご意見もあります。

ただ、避けられないのは、やはり、価格と機能面です。子どもたちが見本を見ただけでは、価格、機能面、生地良さ等について考える余地はなく、どの制服が好きですかという人気投票的な話になってしまいます。子どもたちの好きなデザインという点だけで決められて良いのでしょうか。恐らく、制服の価格や機能面等を提示せず決定されることを、皆さんもご心配されていると思います。

来年の4月から運用しますので、来月までにはどの制服にするかを決め、5月末までに仕様書を作ることとなるので、大変タイトなスケ

ジュールです。その中で、せっかくやるなら、親にも制服を見てもらえるよう考える必要があります。

以上のことから、現時点では、委員の皆さんから多様なご意見をいただいたということに止めておきましょう。

ご意見を受けとめ、今後の方向性をどのように持っていくかについては、もう一度事務局で整理したうえで、教育委員の皆さんに報告してください。

3 「新しい制服の導入から学校現場、児童生徒に考えて欲しいこと」に関する各教育委員からの意見

市長 制服の機能性の課題解消をきっかけに、快適な学校生活とはなにか、LGBTQの理解のためにどう取り組んでいくのか、校則に対して今後どのように考えていくのか。これらは、制服とは直接関係はありませんが、校則とは密接に関係がありますので、やはりしっかり考えた方がいいというご意見を委員の皆さんからいただいております。

学校教育課長 最後の校則について、市長のお話にありましたとおり、制服と密接に関わるものです。例えば、今は詰襟とセーラー服ですので、下に着る服は既に校則で決められていますが、今後ブレザーの制服を導入した場合、ブレザーに合わせて下に着る服を考えていく必要があります。既に、現在、中学校部会において、今までの校則を見直すことを含め、新たな校則について再検討する方向で進んでいます。

市長 校則については、一般的に話題になっているところです。春日井市としても、校則について、この機会に今一度、各学校で見直すべきところは見直そうと検討しているところです。
他に、この会議でお諮りすることはありますか。

教育総務課長 制服のデザインについて、各学校別というより、全市統一の制服としてよいか、ご意見を頂けますか。

市長 まず、市内の中学校の制服は、各学校で選ぶのではなく、市内統一のデザインを選ぶということでもいいですね。それを前提とすると、各学校の特色がなくなってしまうというご意見があります。一方で、時代の流れで、むしろこの学校かわからない方がいいというご意見もあります。とはいえ、やはり、それぞれの学校にはそれぞれの学校の特色があった方がいいので、制服に学校ごとのワンポイント等を付

けてもいいのではないかというご意見もあります。

現状はどうですか。

学校教育課主幹 男子の制服は、市内3校のみがやや紺色っぽいブルーで、それ以外の中学校は黒で、一見区別が付きません。女子の制服は、リボンや襟の線の本数や色等において若干違いが見られます。

市長 例えば、セーラー服の場合は、白い襟の線の数や、リボンの色等で学校の区別が付きまます。松原中学校のリボンの色は緑色です。緑色のリボンをつけていると、松原中学校の生徒だとすぐにわかるわけです。しかし、今は、どこの学校かはわからない方がいいという意見もあります。

学校ごとに特色を付けることを認めるのか、学校ごとにその判断は任せていいのか、委員の皆さんのご意見を伺いたい。

竹田委員 自分が卒業した学校の制服はブレザーで、ちょっとしたワンポイントがあります。その制服を後輩が着ていると、親近感、同窓意識、一体感のようなものが醸成されると思いますので、学校ごとにリボン等で特色を付けるのはあり得ると思います。

大野委員 地域住民として、地元の学校に対する愛着というものは、やはりあります。市内の中学校の制服が全部同じになってしまうと、「ここの学校の子どもが歩いているね。」「違う学校の子どもだね。」ということがわからなくなり、また、自分の地元の中学生が誰かもわからなくなります。自分の学校、地域の学校に対する愛着も薄れてしまうのではないかと危惧しています。

制服のデザインが市内統一ということであれば、どこかにポイントをおいて区別することは難しくなりますが、なにか違いがあった方が、地域住民として学校やそこに通う子どもたちに愛着がわくのではないかと思います。

浅井委員 私も同じ意見です。学校ごとに任せて特色を出してもらえばいいと思います。

例えば、体操服やセカンドバッグなどに特色が出ています。現に、学校名が書かれたセカンドバックで通学する生徒をよく目にしますので、どこの学校の生徒かすぐにわかります。

私の学区では、制服の下に体操服を着て通学し、学校へ着いたら制服を脱いで体操服になるそうで、制服を着る機会が少ないのが現状です。制服を着る機会を増やしたうえで、制服に特色を付ければいいと

思います。

小塩委員　私も同じ意見です。学校ごとに制服の違いを明確にするというわけではない中、いわゆる地元の人たちに親しみを持ってもらえるといいなと思ったときに、それを制服の中にどの程度取り入れていくのか。新しい制服を地域の人たちに受け入れてもらえるような工夫ができれば良いと思います。

教育長　例えば、リボンやネクタイで学校の特色を出すと、中に着るシャツを指定する必要が出てきますので、指定品を作らないとするとワッペンやバッジで特色を出す方法もあると思います。

ブレザーの下に着る服は、カッターではなく、襟の付いたポロシャツでもいいと考えています。ポロシャツであれば、ネクタイは締められませんし、詰襟は下に何を着ても見えないので平気で体操服を着てきますが、ブレザーであればさすがに体操服は着てこないでしょう。

ブレザーを導入すると、学校生活の様子も変わってくると思うので、特色を出すという点においては、ブレザーを導入してから、各学校で話し合い、その学校の独自性の出し方を考えていくのもいいと思います。

市長　委員の皆さまの意見をまとめますと、制服が市統一のブレザーなので、やはり、それぞれの学校の特性をワンポイント等で表わした方が、親や地域住民の立場からも賛同を得られそうだ。また、学校としても、制服のデザインまでは同じだが、ここが違うよと言えるワンポイント等があった方が良い。ただし、そうした特性をどう表すのか、いつ取り組んでいくのかについては、学校に任すのも一つの方法であり、今すぐには決めることはできないというものでした。

学校教育課主幹　他にも校章、ボタンなどの提案について、学校に声をかけながら、方向性を見ていきたいと思います。

市長　今日の総合教育会議では、制服をどうやって選ぶのか、選んでもらう対象は子どもたちだけなのかということも含め、なかなか結論は出ていないように思います。

また、制服の価格について、今回の総合教育会議では全く話題になっていません。教育委員会からは、現在の制服より安い価格にするという前提で進んでいると報告を受けていますが、価格帯については全く提示されておられません。

このような状況の中で、委員の皆さんから頂いたご意見をもう一度事務局で整理し、制服の選考方法等について、皆さんに改めてご提示したいと思います。事務局においては、再度何らかの形で報告することを検討してください。

【午後 2 時 30 分 終了】

上記のとおり、議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、市長及び指定された議事録署名人が署名する。

令和 4 年 3 月 4 日

市 長 伊藤 太

署名人 水田 博和